

地球發刊に就て

「地球」

といふ地理學及び地質學の智識を普及し其の研究を促進する學術雜誌の發刊は多年企てられて居たが世界大戰爭の爲めに之を實現するに種々の障害があつて、漸く今秋に至つて計畫が熟した。然るにかねて諒解のあつた東京の某書店と交渉を開かんとする間に豫期せざる大震災の起つたので、全然此の希望を抛擲するか、又は當京都で之を發行するかの外なき場合に立ち到つた。

翻つて考ふるに此の大地變の真相を科學的方面から闡明することは我等斯學に従事するものゝ國家に對し世界に對する義務であるから、此の際此の計畫を畫餅にせず、一層の勇氣を鼓して當初の目的を遂行せんとした。幸に關西印刷界に地歩を占め來つた内外出版株式會社で印刷發賣の重荷を分たれるので、印刷能力の不足勝ちの今日でも相當な體裁を具へた雜誌として明年一月から之を世に問ふことが出来る確信を得た。

戰爭以來歐洲では獨塊の如き敗者のみならず、戰勝に誇る佛國の如きすら専門

科學雜誌の維持は頗る困難を感じつゝある悲況に陥つたが、今や我等日本の科學界も突然同一の厄難に遭遇した譯で、我等の計畫を遂行するにも十分慎重な徑路を取らねば、半途にして挫折する窮境に陥る危険がある。故に此の際先づ計畫の内容を大方諸君に披陳して、斯學を研究し又は之に興味を有せらるゝ諸君の力を藉つて之を實現し得るや否やを諸君に謀る外に安全な途がない。

本誌「地球」の包含する内容は斯學の廣汎なる範圍に涉るもので、抽象的に之を列擧するよりも、後に掲げた最近數月間に載せる豫定題目を一覽せらるゝ方が本誌の取扱はんとする問題の一斑を見るに簡單で又た明瞭であらうと信ずる。

編纂者の希望としては本誌の末に若干頁を割いて論文雜錄の歐文梗概及び短篇歐文論文報告等を掲げて東亞に於ける斯學の狀況を歐米諸國の學界にも報導し得る機關としたい。

其の體裁は目下研究中であるが鮮明な地圖と寫眞とは缺く可らざるもので、許す限り掲載することは方針の一として居る。是が爲めには普通の雜誌よりも良好な紙質を選択し且つ印刷の方法にも注意を加へねばならぬが、此の點は内外出

版株式會社の設備の完全と従業者の熱心とで餘り我等の豫期に遠からぬだけには出來る見込みである。

我等の本誌編纂を計畫するに當つて最も深く感ずる缺陷は從來此の種の雜誌の通弊たる各地方の讀者との聯絡の不十分なことで、是が爲めに地方に於ける重要な事項が望ましただけに網羅されずして報道が編纂者の居る中心地だけで獲られる範圍に局限せられて、日本及び東亞全體に互つた鳥眸を失ひ易い。本誌は各地方の専門家及び斯學に興味を有する讀者諸君の協力によつて此の缺陷を補はねばならぬから、是れ第一に本誌編纂者の讀者諸君に一擧手一投足の勞を乞はねばならぬ所である。

此の計畫遂行の成否安危は全く下に掲げた如き問題に興味を有せられる讀者の數が幾何あるかに在る。三千以上の讀者があれば安心して發刊し得るが若し不幸にしてこれだけの部數の印刷の見込の立たぬ場合には涙を呑んで發刊を見合はせねばならぬ。本誌の成立に好意を有せられる諸君は封入端書で至急御一報を煩したい。幸に多數諸君の賛同を得ることが出來て、發刊の見込が立てば、發

刊期日と價格を定めて購讀を乞ふ積である。

「地球」編纂代表者

小川 琢治
石橋 五郎
中村 新太郎

主 要 題 目

○關 東 大 地 震

- 一、關東地方の地勢
- 二、富士火山帯及び關東山系の地質構造
- 三、關東及び東海道に起れる地震
- 四、明治、大正年間の關東地震
- 五、大正十二年關東大地震と其の前震及び餘震
- 六、震動の性質及び範圍
- 七、海震
- 八、震動の地質學的及び地

理學博士 小川 琢治
 理學士 石川 成章
 理學士 中村 新太郎
 理學博士 松山 基範
 理學士 本間 不二男

震學的考察 九、震災被害地 (一)東京及び近郊

(二)横濱及び三浦半島(三)湘南地方(四)房總半

島(五)伊豆半島(六)駿甲地方(七)信濃地方

一〇、結論

○關東震災地踏査紀程

○關東地震體験記錄

○地震の研究法

○清朝以後の支那地震 (續支那地震年表)

○阿蘇火山の地貌

○茶畑の地史學上の意義

○長門峽に於ける河道變遷

○朝鮮咸北火山岩地方の風景

○北樺太探檢記

理學士 藤井毅太郎

理學士 上河善雄

文學士 小牧實繁

理學士 伊藤貞市

理學士 本間不二男

上治寅次郎

理學博士 松山基範

文學士 藤田元春

理學士 本間不二男

理學士 中村新太郎

文學士 小牧實繁

理學博士 小川琢治

理學士 伊藤貞市

理學士 榎山次郎

○南滿洲の地理的研究

文學士 田中秀作

○春のジャージー島

理學士 中村新太郎

○近畿地質雜觀

理學士 石川成章

○世界交通上より觀たる神戸港の位置

文學博士 石橋五郎

○日本村落及び都市の居住地地理學的考察 (長篇)

理學博士 小川琢治

雜 錄

○ヴェーグネルの地塊移動説○コーベルの地殼構造論○舞子濱の鮮新統○紀伊の洪積統○但馬の

土地移動○濱名湖畔の象化石○大正十一年島原地震○北米博物館支那探檢の成績○北支那地質圖

○朝鮮の曹達微斜長石○蘭領ホルネオの金剛石○新らしき鳥道圖○モンテシユ・ド・パロール○地

震學書目○風景論書史○朝鮮地學書史○汎太平洋會議(第二回濠洲)の景況○上賀茂觀測所のガリ

チン地震計○此他新報欄に地理學及び地質學に關する最新日本東亞及び世界の簡明正確なる報道

を掲載すべく○新著書目解題内外研究彙報の完備を期し○論文及び主要雜錄歐文梗概も第一號よ

り掲載せんと試みつゝあり。

地

球

大正十三年
六月

第一卷

地球 第一卷 總目錄 大正十三年一月—六月

圖版及寫真版

- 第一版 關東地方等震線及地震構造線……………(第一號)
- 第二版 隆起したる初島……………(第一號)
- 第三版 北樺太北端ムイスクの石氷……………(第一號)
- 第四版 ジウスとフムホルト……………(第二號)
- 第五版 西園寺公爵別邸の龜裂、谷岨隧道の崩壞……………(第二號)
- 第六版 伊東町海嘯の跡、眞鶴驛附近の地汙……………(第三號)
- 第七版 根府川村の山崩、秦野村今泉の地汙、北條寶珠院の倒壞……………(第四・五號)
- 第八版 遠州佐濱發掘の象化石……………(第四・五號)
- 第九版 丹澤山塊地質圖……………(第四・五號)
- 第十版 相模灣深度變化……………(第六號)
- 第十一版 關東地方震害圖……………(第六號)
- 第十二版 第三紀海底ニ落地層の露頭……………(第六號)
- 發刊の辭……………(第一號)

關東地震研究

一、關東地勢及地質構造……………小川 琢 治……………一

二、關東大地震の二三の破壊的結果に就て……………本間 不二男……………五六

三、相摸灣津浪の側面觀……………伊 藤 貞 市……………七〇

四、ジウスよりフムホルトへ地震成因説の新轉向……………小川 琢 治……………一三三

五、深發地震の本性(上)……………小川 琢 治……………一九九

六、地震と鑛山……………井 出 健 六……………二二三

七、深發地震の本性(下)……………小川 琢 治……………二六七

八、丹澤山塊の地質構造概觀……………本間 不二男……………三三三

九、相摸灣の所謂陷沒と隆起の意義如何……………小川 琢 治……………四〇五

一〇、相州地方に於ける九月一日及一月十五日の地震に就て……………小 治 寅 次 郎……………四四七

北樺太シユミツト半島探検記……………榎 山 次 郎……………五三三

プエゲネルの地殻移動説……………伊 藤 貞 市……………五八二

大英帝國の地理的位置…………………………六五

蒙古の古代動物…………………………八九

世界石炭鑛業に就て……………石 川 成 章……………一六四

紀伊日高郡南部町堺の洪積統……………中 村 新 太 郎……………一六九
黑 田 德 米……………一六九

蘭領ボルネオの金剛石	一七一
爪哇の砂糖	一七五
滿洲の火山に就て	一七九
地殻變動と放射能	一四四
歐洲に於ける國境の變移地帶	一四九
宮古島の結婚と祭禮	一五八
英領東亞弗利加の開發	一五三
朝鮮の奥陶紀層に關する現在の智識	一六三
大野宋達師印度佛蹟參拜談	一七一
遠州濱名湖畔に出た舊象と其の地層	一七〇
震災後の悲しい追憶	一六一
地理學者としてのカント	一六三
黒鏽の放射能測定	一七一
地震計に就て	一七六
第二回汎太平洋學術會議概況	一四七
講 話	
地球の生れるまで	九六一
松山基範	一七六
	二六四
	二六五
	四九六

雜報

地球 第一卷 總目次

東京地學協會と地質調査所の震災.....一〇一
 我國の基線測量.....一〇一
 臺灣人口増加の趨勢.....一〇二
 福井縣の水産狀況(大正十二年度).....一〇三
 大正十年度内に於ける國有鐵道の改善.....一〇四
 陰陽線の聯絡.....一〇四
 九州一周鐵道完成.....一〇五
 大正十二年朝鮮貿易.....一〇六
 日阿貿易情況.....一〇六
 地理科豫備試驗問題.....一〇六
 近江田上山鑛物採集の狀況.....一〇七
 別府の噴湯.....一〇八
 富山縣の山崩.....一〇八
 南洋の燐礦.....一〇八
 海事四則.....一〇八
 北極探檢計劃.....一九〇
 米國銅産額.....一九〇
 米國移民制限.....一九〇
 瑞西の大降雪.....一九一
 伊太利の洪水.....一九一
 巴里の洪水.....一九一
 支那棉花減收.....一九一
 稀有の颶風.....一九一

民國地質調査所.....一九二
 高等教員檢定試驗の指定參考書に就て.....一九三
 南滿の甜菜糖.....一九五
 甘珠爾廟.....一九五
 ホルネオの發達.....一九五
 米國農産實收高.....一九六
 加州米本邦向輸出.....一九六
 南洋の木材.....一九六
 伊太利生絲の世界的地位.....一九七
 印度の石炭.....一九七
 朝鮮の人蔘.....一九七
 火田の民.....一九七
 獨逸最近の物價.....一九九
 地理科本試驗問題.....二八〇
 ラフェール・マンヘリーの計畫.....二九四
 伊太利に於ける火山蒸氣の工業的使用.....二九四
 ガヴァオ州の邦人近況.....二九四
 黑河の砂金取引.....二九五
 莫斯科蒲騰間直通列車.....二九六
 米國加州の油田.....二九六
 ロビンソン島(世界の隅、一).....二九六
 昨年十一月以後の地震.....二九六
 大正十三年一月以後の地震.....二九八
 新疆省の油田.....五〇八

新刊紹介

華僑の現状	五〇八
奉天地方の米作	五〇九
カボック棉	五一一
生絲の價格	五一二
江西省の油脂類	五一三
滿鐵の頁岩製油	五一四
鐵道開通三項	五一四
文檢地理科豫備試驗問題	五一四
故神保博士の歐文著述目錄	五一五
地形學	一〇七
日本史の研究	一〇七
都市と建築	一〇七
自由港の考察	一〇七
キリス著地質構造	一九三
信濃鐵物誌	一九三
朝鮮部落調査豫察報告	一九四
北滿洲と東支鐵道上卷	一九四
市町村大字讀方名彙	二六〇
日本地圖帖地名索引	二八一
京都府北桑田郡誌	二八一
Landholmenw: The Handy Reference Atlas 1928.	二九八
Ratzel: Politische Geographie	二九八
日本の港灣	二九九

質疑應答

朝鮮交通發達號	四〇〇
地震	五一六
地震講話	五一六
綜合世界經濟地理	五七
世界に於けるゴムの需給狀況について	一〇八
地勢の良く分る手頃な世界地圖(英文)	一〇九
我が國に於ける治水事業の大要	一〇九
ブリュクナーの週期に就きて	一九四
氷路としてのダニュープ河の價值	一九五
小川琢治氏の人文地理、自然地理地理學通論	一九七
地形學研究の地圖	一九七
地質圖のある世界地圖	一九八
文檢試驗問題の參考書類	二八二
大正十二年度地理科本試驗問題に關する解説	四〇〇
根府川村大山崩	四〇四
本邦地質圖	五一八
氷山の接近と海水の溫度	五一八
璞石關	五一九
コヤシ	五二九
北海道の地質圖及著書	五二〇
新著題目	五二六

號 刊 創

地 球

號 一 第 卷 一 第

行 發 日 一 十 月 二 年 三 十 正 大

目 次

圖 版 關東地方等震線及地質構造線圖(色刷)
寫 真 版 (一)隆起したる初島 (二)北樺太の石水
發 刊 の 辭

關東地震研究

一、關東地勢及地質構造……………理學博士 小川 琢 治

二、關東大地震の二三の破壞的結果に就て……………理學士 本間不二男

三、相模灣津浪の側面觀……………理學士 伊藤 貞 市

北樺太シユミット半島探檢記(上)……………理學士 横 山 次 郎

プネグネの地殼移動說……………理學士 伊 藤 貞 市

○大英帝國地理的位置(ホーンコーネツシユ)……………

○蒙古の古代動物(オスボーン)……………

講 話

地球の生れるまで(一)……………理學博士 松 山 基 範

雜 報

新 刊 紹 介

質 疑 應 答

京 都 帝 國 大 學 理 學 部

地 質 學 教 室 內

地 球 學 團

第一卷第二號(豫告)

寫真版 地震 (松山撮影)

目次

關東地震研究(其二)

四、ジウスよりフンボルトへ地震成因説の新轉向

北樺太シユミット半島探検記(下)

紀伊日高郡南部町堺の洪積統

世界の石炭鑛業に就て

蘭領ボルネオの金剛石

瓜哇の砂糖(シヤシノウ)

講話

地球の生れるまで(其二)

雜報

新刊紹介

質疑應答

理學博士 小川 琢治

理學士 榎山 次郎

理學士 中村 新太郎

理學士 黒田 徳章

理學士 石川 成章

理學博士 松山 基範

(挿圖凸版數枚)

地球學團規約

- 第一條 本學團は地球學團といふ。
- 第二條 本學團は地球に關する學術的研究を進め兼て同好の士の親睦をはかるを目的とする。
- 第三條 事務所を京都市白川通分町京都帝國大學地質學教室内に置く。又會員が多い地方には支部を置く事がある。
- 第四條 本學團の事業は次の如くである。
 一 雜誌並に圖書の刊行
 二 講演並に講習會の開催
 三 實地見學の指導
- 第五條 本學團員は地球購置費として一年分六圓又は半年分三圓を發行所へ前納すること。
- 第六條 本學團員になりたいた人は、住所職業氏名を申込み、同時に地球購置費半年分以上を、發行所へ送金する事。

註文規定

- 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版株式會社へ御申込下され度候。
- 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下さるべく候。
- 振替貯金にて御送金ば(振替大阪三三九五番三三九三番東京三三九三番)内外出版株式會社宛に願上候。
- 前金切れの場合に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候。
- 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候。

定價

一册	定價金五十錢	郵税金貳錢
六册(前金)	定價金參圓	郵税不申受
十二册(前金)	定價金六圓	郵税不申受

廣告料 一頁 金參拾圓 半頁は取扱不申

大正十三年二月八日印刷納本
 大正十三年二月十一日發行

第一卷 第一號

不許複製
 禁轉載

編輯者 京都帝國大學地質學教室内 地球學團

右代表者 藤田元春

發行者 大谷仁兵衛

印刷者 須磨勘兵衛

印刷所 内外出版株式會社印刷部

發行所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版株式會社

振替口座 大阪三三九五番 東京三三九三番

本社 京都市下京區西洞院通七條南
 出張所 京都市京橋區加賀町十番地
 販賣所 京都市神田區錦町一ノ十九

内外出版株式會社

賣捌所

(東京) 東上堂
 (大阪) 盛文館
 (神戸) 寶文館
 (京都) 共盛社

東海堂 北隆館
 東誠堂
 至文社
 三瀨書店
 川瀨書店
 大盛社

CHIKYU—THE GLOBE

Vol. I. No. 1.

Feb. 1924.

Pl. I. Isoseismic and Seismo-tectonic Lines of the great
Kwantō Earthquake, September, 1923. (Ogawa)

Pl. II. Raised Beach after the Earthquake, at Hatsushima,
Izu.

Pl. III. North Karafuto.

Contributions to the Study of the great Kwantō Earthquake,
September, 1923.

1. Morphology and Geologic Structure of the Kwantō.
By Takuji Ogawa, *Rigakuhakushi*
2. On Some Destructive Effects. By Fujio Homma,
Rigakushi.
3. A Word on the *Tsunami* on Sagami Bay. By Teiichi
Itō, *Rigakushi*.

Expedition to the Schmidt Peninsula, North Karafuto, By
Jirō Makiyama, *Rigakushi*.

Wegener's View on the Origin of the Continents and the
Oceans. (T. I.)

Geographical Position of the British Empire.

Ancient Mammals in Mongolia.

To the Birth of the Globe. By Motonori Matsuyama,
Rigakuhakushi.

Geographical Notes——New Books, etc.

Chikyu Gakudan
Kyoto.